

第4回精度管理セミナー「コスモス」終了報告

平成25年10月5日(土)・6日(日) 札幌医科大学

第4回のコスモスセミナーを、正会員・賛助会員合わせて93名の受講者の参加で開催致しました。何を基準として検査値の標準とするのか、検査の基準範囲設定に関する講演、尿中有形成成分動分析器に関するメーカー講演、生理機能の呼吸機能と微生物の精度管理事業報告を行いました。

北臨技の精度管理セミナーは、日臨技の精度保証施設認証にあわせて、ハマスからマウレを経てコスモスへと装いを改めてきました。ですが、北臨技コントロールサーベの報告会は欠かせません。今年度はサーベイに日臨技の精度管理システムを利用したため、地区単位

の報告ではなく、北臨技全体の集計・解析の報告を行いました。そのせいか、サーベイ試料のマトリックスが測定試薬に及ぼす影響をより明確にしていきました。

昨年からは始めたCBCも測定機種の特性で壊れた細胞を除外する経路で測定すると値が外れてしまふことが判り、機械の特性についてメーカーからの説明が討議の場に出てきたことは有益でした。

どの施設でも同じ検査値が得られるよう施設間差を無くするために地区でできること、北臨技ができることに取り組んで行きたいと思われました。

(教育研修部長 三浦 玲子)

北臨技 NEWS



一般社団法人 北海道臨床衛生検査技師会
北臨技 NEWS No.257 25.Oct.2013
TEL:011-786-7071/FAX:011-786-7073
http://www.hokuringi.or.jp

第89回北海道医学検査学会告示 (日程の訂正)

◇会期

平成26年10月25日(土)・26日(日)

◇会場 岩見沢市民会館・文化センター

※先月号に第89回学会の告示を掲載しましたが、日程が変更になりましたのでお知らせいたします。

◇平成25年度日臨技北日本支部学会(第2回)◇ ◇支部内連絡会議 終了報告◇

平成25年10月12日(土)・13日(日)の2日間に亘り仙台国際センターにおいて第2回日臨技北日本支部医学検査学会が「北からの風～発信・連携～」をテーマに開催され、919名の参加で盛会に終了しました。

演題数は124演題で、北臨技からは18演題と昨年より10演題多く、認知度の高まりを感じました。来年度も今年度以上の演題数および参加を期待しております。

また、学会前日には、支部内連絡会議が支部幹事、日臨技理事、各道県学術部長の出席で開催され、北日本支部学術部門の構築について、日臨技学術組織再構築委員会から答申されている各支部9部門体制に向けて部門員を各道県から選出することとなりました。来年度の北日本支部研修会は、各道県が担当希望を提出し1月の第2回北日本支部幹事会で決定します。

次いで、第3回北日本支部学会は、岩手県が担当し平成26年11月23日(土)・24日(日)岩手県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市)で開催されることが決定されました。

尚、今年度の学会から優れた演題に対して授与される支部学術奨励賞については、詳細な選考方法が確定しておりませんが、今年度は宮城県技師会で選考し支部幹事会で承認することとなりました。

来年は、第63回の日本医学検査学会も「朱鷺メッセ」(新潟市)で開催されますので、東北で二学会を担当することになります。会員の皆様におかれましては、支部学会、支部研修会等へのご理解と協力を宜しくお願い致します。(副会長 東 恭悟)

第177回・第178回北臨技講習会 「初心者にやさしい血液講習会」終了報告!

平成25年9月28日に第177回、29日に第178回北臨技講習会が札幌医科大学で開催致しました。

「初心者にやさしい血液講習会」をテーマに、染色体検査や基本的な血液像の解説、さらには北大の重松先生による治療の講演もあり、受講者は67名でした。

翌29日は受講者45名で、顕微鏡の取り扱いの講演後、18症例の末梢血と骨髓血の鏡検実習を行いました。血液疾患は非常に種類が多いので、その中でも遭遇しやすい症例を集めました。さらに3症例はモニター付き顕微鏡を使用し、診断に必要な検査項目、骨髓像のコメント、臨床への報告を実践しました。初心者への参加が多かったため、今後、同じ症例と遭遇した際には役立つ講習会になったと思います。

(生命倫理部門員 遠藤 明美)

●北臨技医療安全研修会 終了報告●

平成25年9月14日(土)日本赤十字北海道看護大学において医療安全研修会を開催致しました。工藤千佳先生に「事例から学ぶ医療安全～臨床検査安全対策のポイント」と題して医療事故が社会で問題視される切っ掛けとなった事例から始まり、採血での事例、超音波検査の事例等を参考に、分り易く丁寧に講演を頂きました。実情に即した内容で、医療安全を取り組むうえで大変参考になる内容でした。また、今回初めてとなる北海道医学検査学会での開催は、例年以上に多数の参加があり、次年度学会での研修会開催もぜひ企画し、多くの会員へ啓発を促したいと考えております。当日は晴天で道東としては暑い中、会員のみならず他の職種合わせて、総数122名の参加を頂き感謝申し上げます。(常務理事 星 直樹)

- ◆ 求人情報 ◆
- 1) 正職員・管理職候補 札幌市中央区 病院(235床) エコー経験者優遇
 - 2) 正職員 札幌市中央区 病院(94床) 増員 エコー経験者 H26.1月中の入職希望
 - 3) 正職員 伊達市 病院(374床) 30歳迄 生理検査中心に全般 エコー経験者優遇
 - 4) 正職員 旭川市 内科胃腸科クリニック 委細面談
 - 5) 正職員 北見市 循環呼吸科クリニック 検体・生理検査 託児有
 - 6) パート 札幌市北区 病院 週4時間位～ 生理・検体 託児有
- ※詳細は北臨技事務所までお問い合わせください

今月号は
学会特集と
2枚組です

第88回北海道医学検査学会は、平成25年9月14日(土)、15日(日)の2日間、日本赤十字社北海道看護大学(北見市)において開催され、四七二名という多くの皆様にご参加いただき、無事に閉会しましたことをご報告させていただきます。

教育講演では、「これからの検査室像」臨床検査技師に臨むことと題し、札幌医科大学臨床検査医学講座教授 渡邊直樹先生に、ご講演賜りました。先生がこれまでどのような想いで、臨床検査分野に尽力され、未来の臨床検査技師・検査室がどのような意識のもと進んでいくべきなのか拝聴いたしました。私自身、感銘を受けるとともに身の引きしまる思いでありました。

招待講演では、「夢をかなえる脳」と題し、「ホンマでっか!?TV」でおなじみの脳科学者澤口俊之先生にご講演を賜り、人間の脳は、年齢

に関係なく向上可能であるとの内容について、テレビと変わらぬユーザーらしい語り口調で、会場を湧かせて頂きました。

シンポジウムでは、道内でご活躍されている4名のシンポジストを迎え「感染対策における臨床検査技師の役割」について発表して頂きました。このシンポジウムを機会に各施設での感染防止対策に対する積極的な関わりを期待したいと思っております。

公開研修会では、医療安全研究会として、「事例から学ぶ医療安全」臨床検査技師安全対策のポイントと題し、東京海上日動メディカルサービス(株)工藤千佳先生にご講演を頂き、医療安全活動における臨床検査技師の役割について具体的な事例をご紹介頂きました。

一般演題では、会員の皆様が研鑽の成果を発表する姿を拝見し、学会の成功とともに北臨技の明るい未来を確信することができました。

懇親会は、およそ三〇〇名もの方々にご来場頂き、地ビールを堪能していただくとともに会員の親睦を深め、大盛況となりました。

最後になりましたが、遠方にもかかわらず、ご参加ご協力頂きました北臨技会員の皆様、診断薬メーカーをはじめとする関係各位の皆様、北見臨床検査技師会会員一同、心より感謝申し上げます。

また、北見技師会会員の皆様におかれましては、遠方であり交通の便が悪い北見地区開催ということもあり、不安の尽きない準備でありましたが、菅原実行委員長を中心に北見技師会一丸となり、本学会を成功裏に終了できたことを誇りに思います。感謝・感謝です!!

北臨技 NEWS

学会特集号
一般社団法人 北海道臨床衛生検査技師会
北臨技 NEWS No.257 25.Oct.2013
TEL:011-786-7071/FAX:011-786-7073
http://www.hokuringi.or.jp



左から、菅原実行委員長、澤口俊之先生、畑中学会長



札幌医科大学臨床検査医学講座 渡邊直樹教授

◇ はじめての演題発表を経験して ◇

北見赤十字病院 市田文男

第88回北海道医学検査学会において、初めての演題発表を経験させて頂きました。

演題発表の準備は、知識、経験不足の私にとって苦悩の連続でしたが、多くの方に助言、指導して頂き、発表の場に立つことができました。

発表は「血糖自己測定における手指洗浄方法の検討」と題し、血糖自己測定における注意喚起情報と対応策について検討した結果を発表させて頂きました。発表当日は、その場に立てた喜びと、初めての演題発表に対する不安が入り交じる複雑な心境でしたが、当日までサポートして下さった周囲の後押しもあり、無事に発表を終えることができました。発表後、多くの方と意見交換ができ、大変貴重な経験をさせて頂いたと感じます。今後もこの様な場において、積極的に参加、発表できたらと考えます。

最後になりましたが、この様な発表の場を準備して下さいました北臨技の皆様、学会実務委員の皆様へ深く感謝申し上げます。



◇ はじめての学会実務委員を終えて ◇

網走厚生病院 武部 恭子

これまで学会に参加する事はあっても、実務委員を経験するのは今回が初めてでした。どんな事をするのか少し不安はありましたが、事前に詳細に記載されたマニュアルが配られ、流れや役割について確認する事が出来たので、不安な事は無くなり学会当日を向える事ができました。

学会役員の方々の入念な準備、また部署責任者の方のリーダーシップに加え、他施設の方々とのコミュニケーションをうまく取ることが出来、北海道医学検査学会を無事終える事が出来ました。

今回、実務委員として参加出来た事は、私にとっても良い経験になりました。次回またこのような機会があるなら、初めて実務委員として参加する人達をサポート出来るよう、今回経験した事を活かしていければと思います。



演題受付の実務委員の方です。

◇ はじめての学会実務委員を終えて ◇

北見赤十字病院 只野 寛樹

今回、初めて北海道医学検査学会の実務委員を務め、主に会場受付や送迎バスを担当しました。臨床検査技師になって2年目の私にとっては学会に参加すること自体が初めての経験でした。全く何もわからないところからのスタートであったため、最初は何をしたらいいのかわからずただ右往左往していました。これで本当に自分に務められるだろうかという不安もありましたが、あらゆる事態が想定された運用マニュアルに加え、各責任者の的確な指示や懇切丁寧な指導により、当初の不安はほぼ払拭されていました。

準備が進むにつれ次々と問題点が発生し、それを解決するためにその都度入念な話し合いが行われ一つずつ解決していく。学会が終わるまでその繰り返しでした。その中で新たな発見や出会いがあり、絆も生まれました。

当日は特に大きな問題もなく、無事に職務を完遂できほっとしています。今は出来ることは全てやった！という充実感でいっぱいです。今回の経験を今後の学会運営や日常業務に活かしていきたいと思います。



◇ はじめての座長を経験して ◇

遠軽厚生病院 越崎 祐輔

北見地区開催ということもあり、若輩者の私が座長に就くというサプライズがありました。

実際に経験し、感じたことは多々ありました。担当する演題発表に関して、知識を深めなければ演者に失礼にあたると思い、事前に内容が類似した文献や参考書を片手に抄録を熟読していました。当日はフロアから質問がでないことが多く、早く切り上げるべきか迷いが生じ、自分一人だけ演者に何件も質問をする事態に陥ってしまいました。座長として上手く進行できていたのか…客観的な評価が気になるところです…。

実務委員も初めて経験することができ、他病院の北見地区会員と親交を深めることができ大変有意義でした。当たり前のように参加していた検査学会ですが、実は影で各地区役員のご尽力があってこそ成り立っているものだと実感しました。

今後このような形で関わることがあれば、今回の経験を活かし、微力ながら協力させていただきたいと思います。



平成24年度北臨技術表彰の授賞式

左から、佐々木沙耶技師、齊藤史絵技師、及川北臨技会長、杵渕貴洋技師、小松常務理事（神幸二技師代理）。おめでとうございます。これからも第一線でご活躍ください！



ミントくん

来賓の桜田北見市長が開会式にてご挨拶。北見の豊かな自然、食を満喫して下さいとのこと。地ビール、焼き肉…とても美味しかったです！



シンポジウム「感染対策における臨床検査技師の役割」

右から、シンポジストの木田技師（遠軽厚生病院）、阿部技師（滝川市立病院）、小野技師（北海道脳神経外科記念病院）、伊藤技師（札幌臨床検査センター）。



懇親会場のオホーツクピアファクトリーです。▲上段は、乾杯ご発声の渡邊教授と畑中学会長、中央は司会の松本さん。▼下段中央は、来年度学会開催の空知地区の磯辺学会会長です。松山千春の「大空と大地の中で♪」を披露！



機器試薬展示コーナー